記者発表資料

平成２５年６月１４日(金)
国土交通省東北地方整備局
胆沢ダム工事事務所

第５回 胆沢ダム長期安全性点検委員会 開催

～ダムの本格運用に向け、安全性を点検～

胆沢ダムでは、平成２６年度から予定しているダムの本格運用に万全を期すため、ダム全体の安全性を点検する「胆沢ダム長期安全性点検委員会」の第５回委員会を開催します。

◆日時：平成２５年６月１８日（火）　１３時３０分～１５時３０分
◆場所：胆沢ダム　学習館（奥州市胆沢区若柳字馬留８１－１）
　　電話０１９７－４９－２５０１
◆主な内容（予定）
・前回委員会での指摘事項とその対応について
・試験湛水モニタリング経過報告について

※会議は非公開ですが、頭取りは可とします。
※なお、議事概要については後日ホームページに掲載します。
（胆沢ダム工事事務所ホームページ http://www.thr.mlit.go.jp/isawa/index.html）

＜発表記者会：奥州記者クラブ、日刊岩手建設工業新聞社、建設新聞社＞

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　胆沢ダム工事事務所
電話　０１９７－４６－４７１１（代表）
副所長（技術）藤原（ふじわら）　政幸（まさゆき）　（内線２０４）
調査設計課長　飯田（いいだ）　学（まなぶ）　（内線３５１）

「胆沢ダム長期安全性点検委員会」の設立趣旨

現在胆沢ダムを建設中の奥州市では、東北地方太平洋沖地震（平成２３年３月１１日発生）及びその余震（平成２３年４月７日発生）において、それぞれ震度６弱の震度が観測された。

また、岩手・宮城内陸地震（平成２０年６月１４日発生）においても、震度６強が観測されている。

岩手・宮城内陸地震では、ダム堤体の盛立工事において盛り立て面の上面にひび割れが発生したり、大規模なコンクリート構造物である洪水吐き工事においてひび割れやずれが発生したりする被害が発生したが、各工事において再盛り立てやコンクリートの再打ち込み等を既に完了している。

また、東北地方太平洋沖地震では、ダム堤体等に設置した観測計器によれば大きな変状等は発生しておらず、地震による影響は軽微と考えられるが、ダム堤体内の管理用通路内において少量の濁水の流出という現象があった。

こうした経緯等に鑑み、平成２６年度から予定しているダムの本格運用に万全を期すため、有識者からなる委員会を設立し、岩手・宮城内陸地震被災後に再施工した箇所を含む本ダム全体を対象に、東北地方太平洋沖地震及びその余震後の安全性を点検するものである。

「胆沢ダム長期安全性点検委員会」の委員一覧

・松本　徳久（政策研究大学院大学　客員教授）

・水野　光章（元（財）水資源協会 専務理事）

・佐々木　隆（国土技術政策総合研究所 大規模河川構造物研究室 室長）

・山口　嘉一（(一財）ダム技術センター首席研究員）

※ 今後、必要に応じて、他の有識者に参加を要請する場合がある

（敬称略）

事務局：胆沢ダム工事事務所